

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
第87回放送の概要 (2014年10月25日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なか (中嶋邦弘)
あな (岸本幸恵)

コアラさんの地域瓦版

かりん (妹尾優香)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) (CM) 神戸で乗って一番楽しいタクシーそれはペリー又タクシーです。優しさで安全・安心を乗せて走ります。観光・ゼミ・研修・福祉輸送等乗れば心温まり、思わず笑みが浮かび、心を結び、出会いを作るタクシーです。本日は誇りと信頼の良質なサービスを提供する、ペリー又タクシー様 (電話078-521-0046) の御協力を頂きました。

1. ゲストコーナー(1): 作家 山下景子さん (64 陽会)

兵庫高校での部活はソフトボール部。中学時代にたまたま甲子園のチケットをもらった事がきっかけで高校野球にはまり、毎日のように甲子園に通った。プロ野球は阪急ファンであった。好きな選手は加藤選手から大熊選手にかわった。ソフトボール部の部員は9名ぎりぎり、前後の世代は強かった。顧問は書道の山本先生で、凄く熱心で弱いなりに練習は一生懸命やっていた。以前から弟と練習していたのでポジションはピッチャーであった。その後内野にかわり、最後は外野になった。打撃ははじめは4番を打ち、最後は6番であった。3年間ソフトボールをしていたので、髪はショートカットで真黒に日焼けしていたので、ラグビー部の新入生から挨拶されていた。

大学への進学は、小さい時からやっていた音楽か国文学のどちらかに行きたかった。ソフトボールをやる時点で、先生から音大に行くならソフトボール部はダメと言われたが、ソフトボールは今しか出来ないと思い、ピアノは一生出来ると思いピアノを辞めた。そして武庫川短期大学に進学した。当初期待はしていなかったが授業は面白く、古典も好きだったが近代文学以後の現代文学が面白かった。一つの言葉を深く追求していくところが楽しかった。例えば和歌なら一人の歌人 (和泉式部) に絞り、ゼミはなかったがゼミのまねごとをしてくれた先生が、例えば「いわゆる」という単語の由来を掘り下げ、そこから日本人について考え、本が書けるほど日本人の本質を考える事が面白かった。「どおせ」「せめて」「いっそ」などは日本語にはあるが、外国語に訳す時に困る言葉であり、例えば「いっそ」は極端な二つの道の片方を選んだ時の言葉である。何気なく使っている言葉を掘り下げる面白さを知った。

ピアノは辞めたが、元々演奏家というより作詞作曲家になりたかった。子供の頃から作り溜めて、NHKのあなたのメロディに投稿し4回選ばれた。その後北海道の北の賛歌コンクールでグランプリに選ばれ、愛知名古屋マイソングでもグランプリをもらった。ピアノを習っていたのでエレクトーンなら出来ると思い音楽教室の講師になった。指導者養成コースに入り、何度も落ちたが年齢制限ぎりぎりの30歳で合格した。音楽教室はグループレッスンで、感性を養うことに重点が置かれ、天職と思いき

く仕事をした。簡単な曲でも子供達に雰囲気やイメージを持ってもらうよう、心の底から感じてそのような気分になって弾いてもらうようにしていた。今は楽譜を読んだりテクニックを重視するようになってきている。今は全く未経験のご主人が、ピアノを弾きたいと言ってきたので教えている。真面目な生徒であるが進歩が遅い。またパソコン教師養成コースに行き、音楽教室に通う父兄に対するパソコン初心者の教室を開いていた。

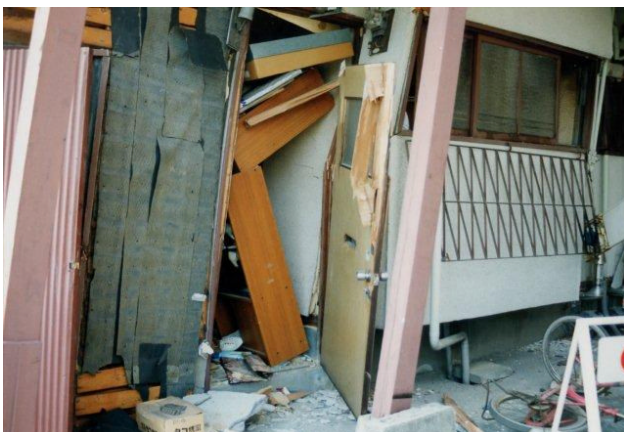
2. ミュージック：「落葉賦（らくようふ）」作詞作曲：山下景子 歌：しまざき由理

落葉賦は20歳ころに作った曲で、落ち葉の歌という意味で、好きになってはいけない人を好きになりかけている若い女性の気持ちを歌ったものです。自分が落ち葉のように揺れながら落ちていきそうで、誰かにうけとめてほしい気持ちを歌っている。

3. ゲストコーナ（2）

山下さんは子供の頃は親や親戚から「夢みる夢子さん」と言われ、お使いに行ってもチョウチョを追いかけ、お使いをせずに帰ってきたりしていた。祖母が絵本をよく読んでくれた。明治の頃は女は本など読んではいけないと言われる中で、隠れて本を読み、短歌を作って投稿していた。毎日新聞に短歌を投稿したところ入選し新聞に掲載された。その時の選者は与謝野晶子であった。祖母は山下さんが自由に勉強出来るのをうらやましがっていた。

1995年の阪神大震災時は、西宮市のアパートで独り暮らしをしていた。前日京都に行き疲れてうたた寝していた時に地震が起こり、アパートが壊れ閉じ込められた。寝ていた場所が良かったので怪我はなかった。しばらくして大声を出すと通りがかった人が気付き、窓を壊して助けてくれた。今でも地震で揺れると思えば怖くなる。震災後お父さんがトラックで壊れた家屋に残された物を持ち帰ってくれた。後日持ち出した本の中に、使いたい言葉を書き留めていたノートをみつけた。書き留めた言葉を生かす方向として、メールマガジンを発行する事を思いついた。山下さんのメールマガジンのタイトルは「センスを磨き、幸せを呼ぶ～夢の言の葉～」で、当時は土日を除く毎日、1日1語を選び発行していた。前向きになれる言葉、きれいな言葉、気持ちが良い方向に向かう言葉を一言選び、語源、由来、意味などに山下さんの気持ちを添えたもの書いていた。このノートは、詩を作りたいと思った子供の頃から書かためていた。第1回メルマガジンで取り上げた言葉は「葉（ひこばえ）」。「ひこ」は孫の事、太い幹や切り株から出てきた新芽の事である。地方によっては稲の切り株からでてきた新芽をいう。



震災で壊れたアパート



葉（ひこばえ）

作家として出発するきっかけは、メールマガジンを2004年5月に発行したことです。8月には幻冬舎から本にしませんかというメールがあり、2005年に「美人の日本語」が発刊された。メールマガジンを発行後、初めての1.17の時に、「恩送り」という言葉を掲載した。この言葉は、「美人の日本語」の9月30日のあとの「埋め草」に掲載している。「美人」というタイトルは、著者が付けた

のではなく、はじめは仮タイトル「言の葉カレンダー」で書き進んでいたが、最後の段階で、もう少し読者にアピールするタイトルとして、例えば「美人の日本語」にしたらどうでしょうかという話が出社よりあり、内容と違うのではと思ったが、出来あがった本の名前は「美人の日本語」であった。単行本と文庫本で合わせて30万部売れた。

埋め草

恩送の

ありがとうの連鎖

同じような言葉「、「恩返し」があります。こちらの方がなじみがあるとおもいますが、どちらかというと、恩を受けた相手に直接、恩を返す事です。

「恩送り」は、受けた相手とは限りません。いただいた恩を、別の誰かに送る。……。そつやって、皆がつながっていくのです。

私たちは、きづかないうちに、様々な恩を受けて生きています。不幸に見舞われた時は、なおさらです。どうしても、「なぜ自分がこんな目にあわなければならないの」と思っています。ですが、運命を恨み始めると、周りの人やものが、恨めしくなっていくます。

あなたの心の中を、恨みの連鎖で一杯にしてしまわないために……。

恩を数えてみませんか。それを、誰かに送ってみませんか。

美しい日本語を調べていると、古い時代に生まれた旧暦とは切っても切れない関係にある言葉が多く、旧暦を勉強する事が多くなり、旧暦に関する本を多く発刊することになった。最近「七十二候と日本のしきたり」という本を出版した。「しきたり」の語源は、「してきたり」で受け継いできた事という意味であるので、してきたことの心、しきたりに昔の人が込めてきた心を大切にしたいと思って「日本のしきたり」を書いた。七十二候は旧暦の時代の季節の目安で、昔の人が細やかに季節の移り変わりを感じてきたことがわかる。

あらためて自然の美しさを感じる心を持つと、神戸の街中でも沢山自然が残っていることに気づく。野鳥の会に入り自然図鑑を作る活動をしている。美人の日本語を読むと、改めて日本語の良さを再発見できるし、言葉の語源などを説明した最後に山下さんの素晴らしいコメントが書かれています。



メールマガジン：<http://archive.mag2.com/0000130676/index.html>

ブログ：<http://yumenokotonoha.com/>

全ての著作：

『七十二候と日本のしきたり』（洋泉社） 『大切な人に使いたい美しい日本語』（大和書房）
『二十四節気と七十二候の季節手帖』（成美堂出版） 『花の日本語』（文庫版）（幻冬舎）
『入門 日本の旧暦と七十二候』（洋泉社 MOOK） 『オトメの和歌』（明治書院）
『暦を楽しむ美人のことば』（角川ソフィア文庫） 『イケメン☆平家物語』（PHP 研究所）
『美人の日常語』…『美人のいろは』改題（幻冬舎） 『現存 12 天守閣』（幻冬舎）
『ことばの歳月』（廣済堂出版） 『美人の古典』（PHP 研究所）
『日本人の心を伝える思いやりの日本語』（青春出版社） 『恋色の日本語』（PHP 研究所）
『美人の日本語』文庫版（幻冬舎） 『ほめことば練習帳』（幻冬舎）
『耳を澄ませば聴こえてくる 音の日本語』（PHP 研究所） 『花の日本語』（幻冬舎）
『しあわせの言の葉』（宝島社） 『美しい暦のことば』（インデックス・コミュニケーションズ）
『美人のいろは』（幻冬舎） 『美人の日本語』（幻冬舎）

4. こぼれた話こぼれなかった話：小学生から高校生まで、スーパーキッズ・オーケストラの活動

- (1) 音楽が大好きな小学生から高校生までの子供たちで編成された弦楽器によるオーケストラが兵庫県にあります。西宮にオープンした兵庫県立芸術文化センターのソフト先行事業として 11 年前に結成されたスーパーキッズ・オーケストラ（SHO）です。芸術監督は世界的指揮者の佐渡裕さんが務めており、その佐渡さんが最も愛情を注いでライフワークとこのいえる子供たち育成を目指したオーケストラです。
- (2) 全国からトップクラスの演奏技術を持つ、小学生から高校生までのジュニア演奏家をオーディションし、厳しい選考を通過した未来の演奏家たちは、合同練習や夏合宿、東日本大震災被災地での演奏、そして本番公演を通じて、かけがえのない音楽体験をしています。そして、演奏技術を磨くだけでなく、音楽ができることの幸せを子供たちと共有していきます。
- (3) 小さい身体で大きなチェロを大人顔負けに弾く小学 3 年生から、プロかと紛うほどのソロ演奏を披露する高校生たちも。一応高校 3 年生でオーケストラも終了退団となりますが、多くの子供たちは国内の音楽大学進学（音楽以外の大学進学も）や、例え小学生であっても海外への留学に旅立つの珍しくありません。でも、佐渡さんは、何も世界に通用するプロを養成するだけが目的ではなく、高校までの子供時代に真剣に音楽と取り組めた経験こそが素晴らしいのだ、とおっしゃっておられます。演奏も、堅苦しいものではなく、アクションを取り混ぜた楽しい演奏や、子供たちの漫才のような演奏解説など、音楽に触れる楽しさを見せてくれます。
- (4) スーパーキッズ・オーケストラの活動で特筆すべきものは、基本的には日頃の練習と夏合宿、合宿地での演奏会、近隣の学校などで、生の演奏を子供たちや市民の方々に聴いていただくことや本番公演（芸術文化センターでは夏休み 8 月の最終土曜日が多い）ですが、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の年から夏合宿に引き続いて、東北を巡って震災復興記念演奏活動を毎年行っています。
- (5) また、東北のほかには、2006 年と 2012 年には大阪城ホールで「一万人の第九」に出場したり、2007 年にはテレビ音楽番組「題名のない音楽会」に出演、2011 年には特別に佐渡裕さんとさだまさしさんのコラボで大チャリティになった「さど☆まさし演奏会」、2012 年には東日本大震災 1 年後のパリ追悼集会などの初の海外演奏旅行、2014 年 3 月には「10 周年記念特別コンサート」を大阪、名古屋、東京（世界の演奏家が目指す日本の檜舞台・サントリーホール）、京都、松本（ここは小澤征爾さんのサイトウキネン演奏会が行われるところ）でロングランしました。全てで、地元のみなさん方からスタンディング・オベーションを受けたそうです。
- (6) いやあ、凄い子供たちが居るんですね。スーパーキッズ・オーケストラの活動紹介はこのくらいで、次回からエピソードも織り込んで、少し詳しく、東日本大震災復興記念演奏・東北演奏旅行や、

震災1年後のパリ追悼集会などの初の海外演奏旅行などのお話を紹介します。お楽しみに。

5. 地域瓦版

11月2日(日)、ハーバーランド松方ホールで、全日近畿不動産フォーラムが開催されます。テーマは阪神淡路大震災から20年、市民目線で考える地域の活性化と題し、第1部は自身も被災者の桂文珍師匠の落語、第2部は文珍師匠も交えたパネルディスカッションで、FMわいわいの和田幹司さんも参加されます。1時30分～4時20分です。

11月16日(日)、町の文化祭2014が10時～16時に、神戸市立地域人材支援センターで開催されます。

11月8日(土)、2014年全日本パンフェスティバルが10時～16時に、神戸国際展示場2号館で開催されます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>